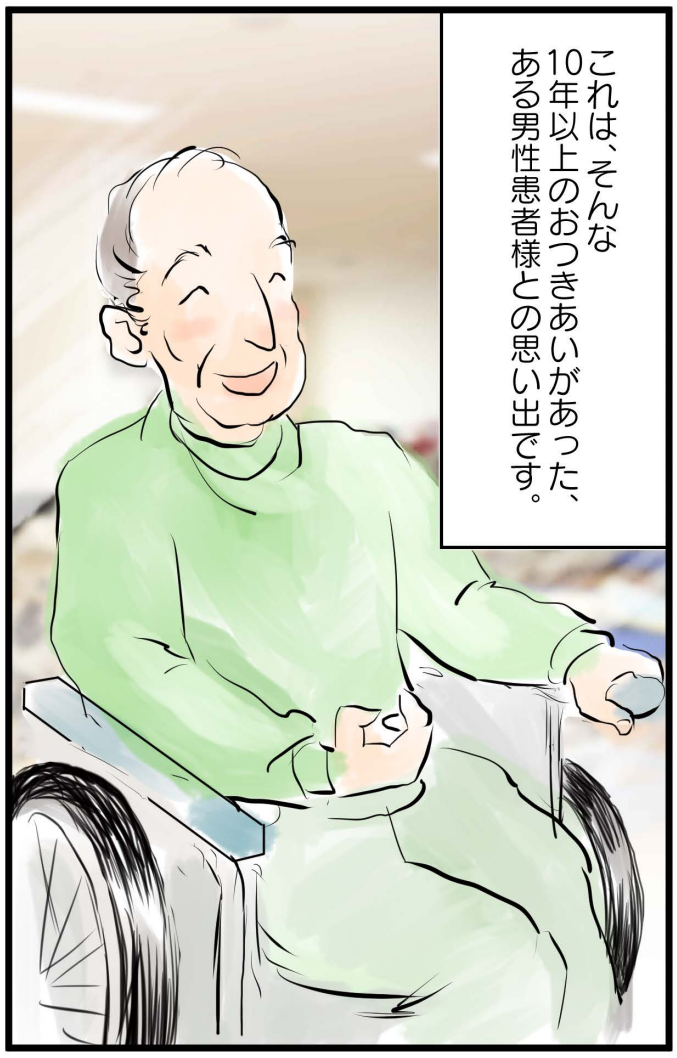
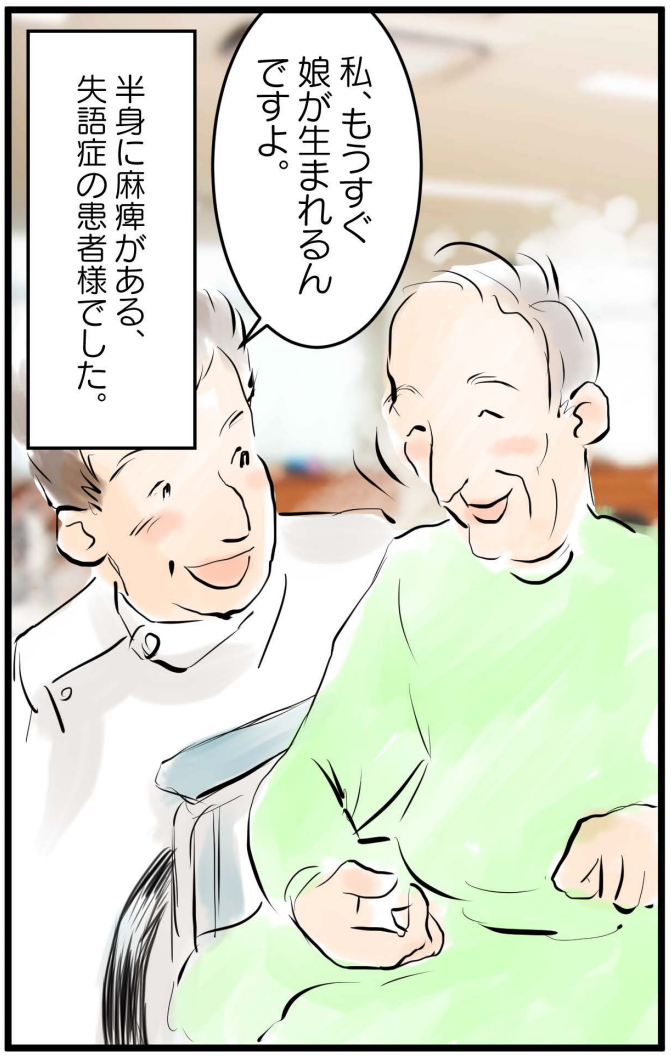
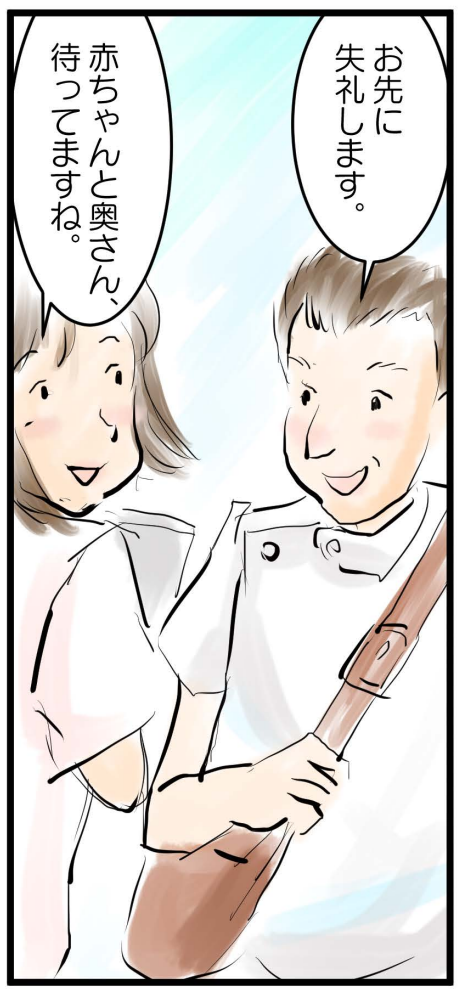
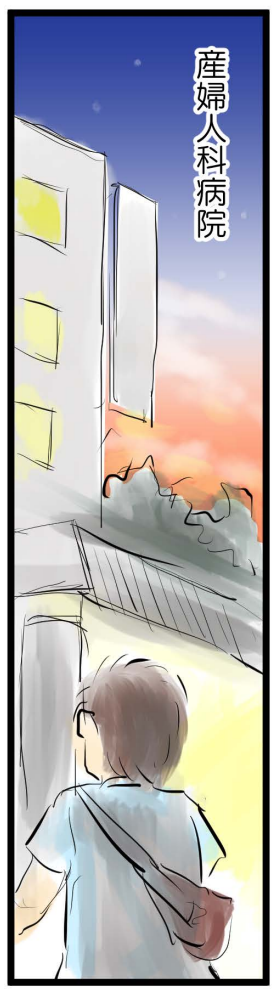
人生のご縁と「先生」たち
リハビリテーション科
スタッフ

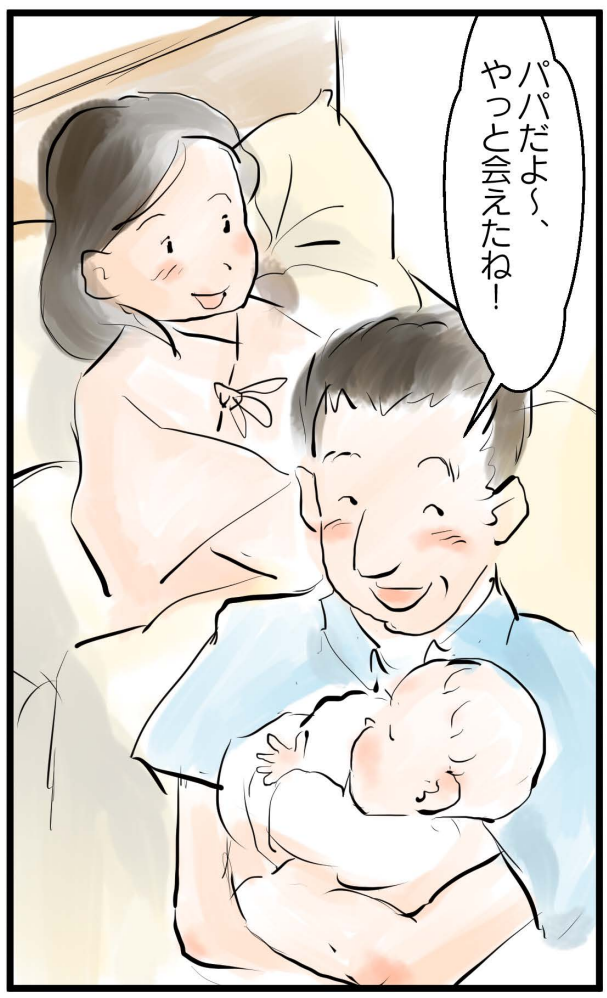
松涛会では患者様と
10年以上の
長いお付き合いになります。
長期入院ではなく、
退院後自宅に戻られて過ごし、
年齢を重ねたのち、今度は
グループ内の通所サービスや
訪問サービスで
お会いすることも多いのです。

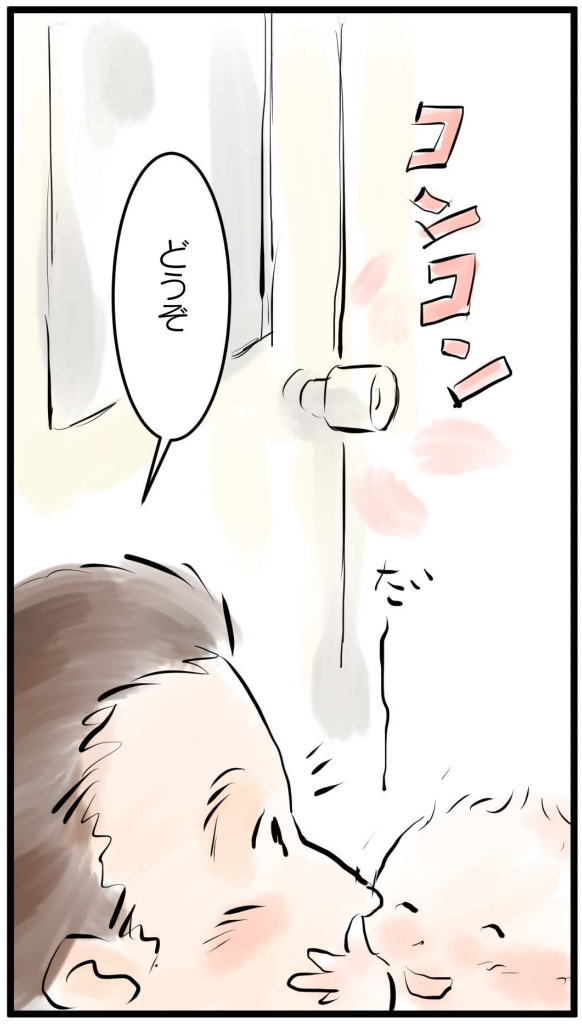

これは、そんな
10年以上のおつきあいがあった、
ある男性患者様との思い出です。


私、もうすぐ
娘が生まれるん
ですよ。
半身に麻痺がある、
失語症の患者様でした。

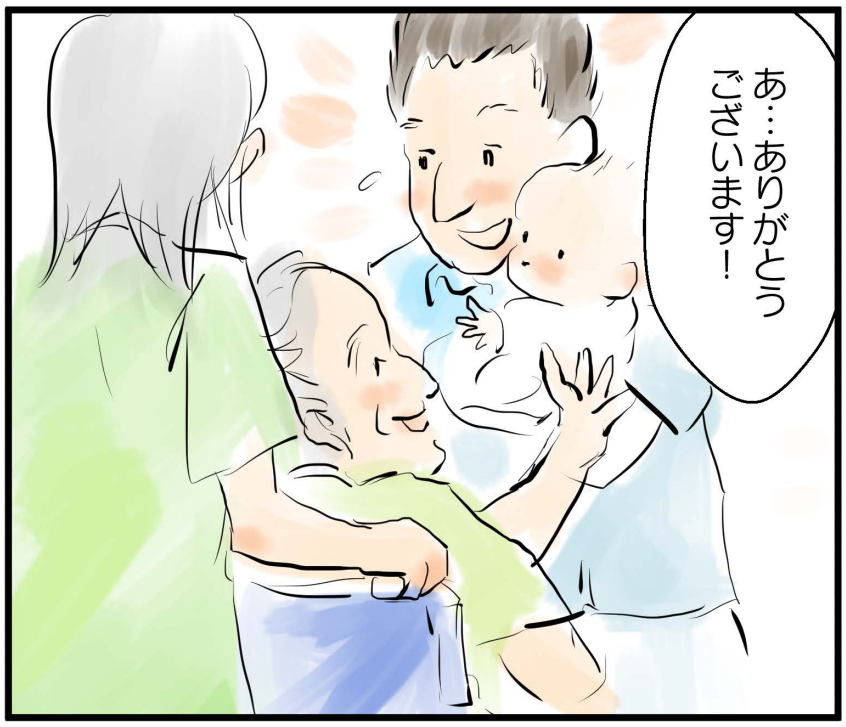

お先に
失礼します。
赤ちゃんと奥さん、
待ってますね。


産婦人科病院

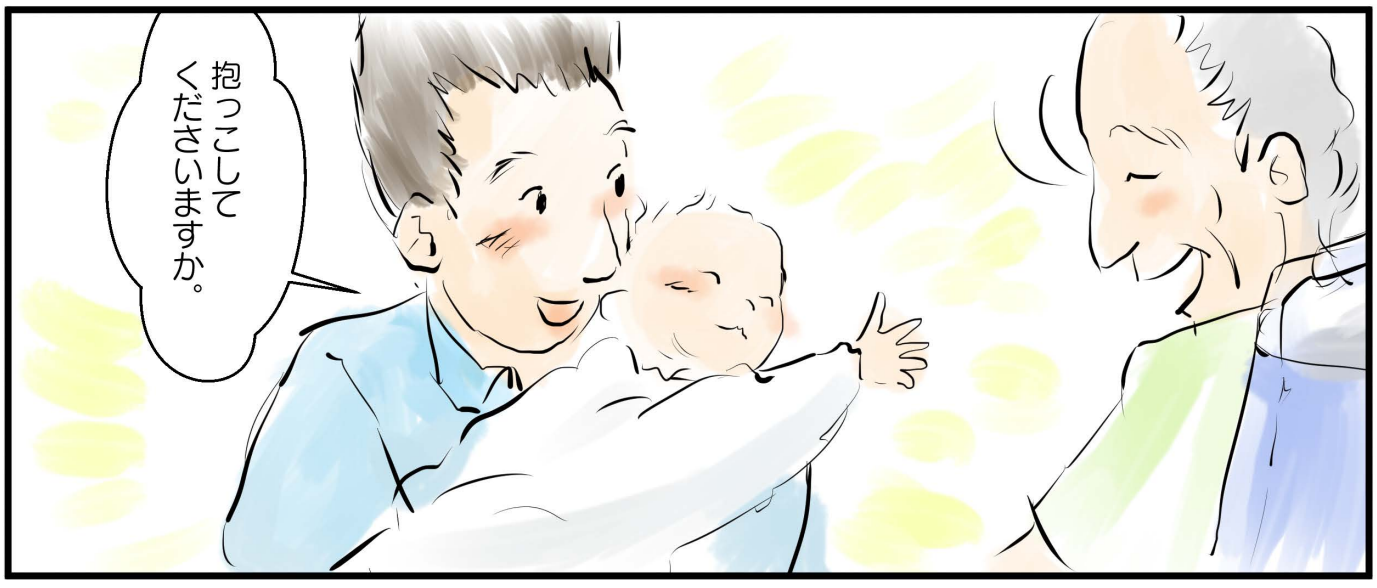

パパだよ～、
やっと会えたね！

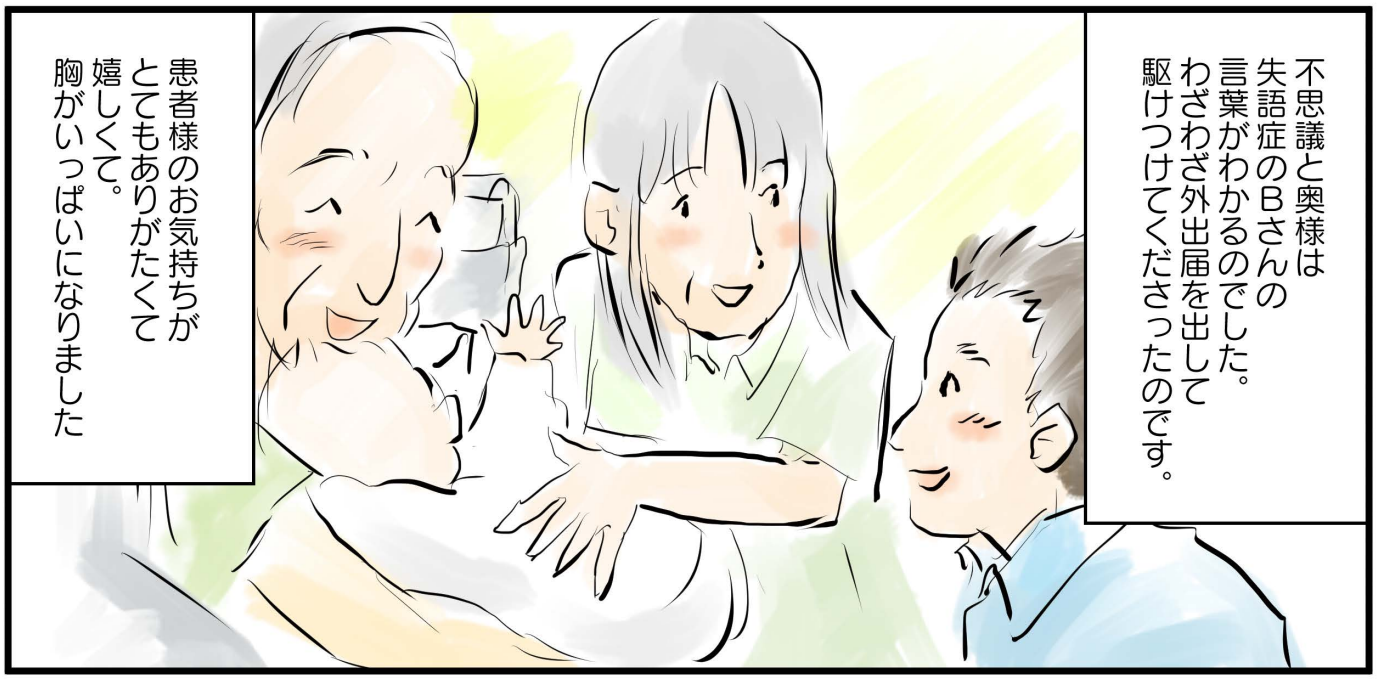

コンコン
どうぞ
だ～

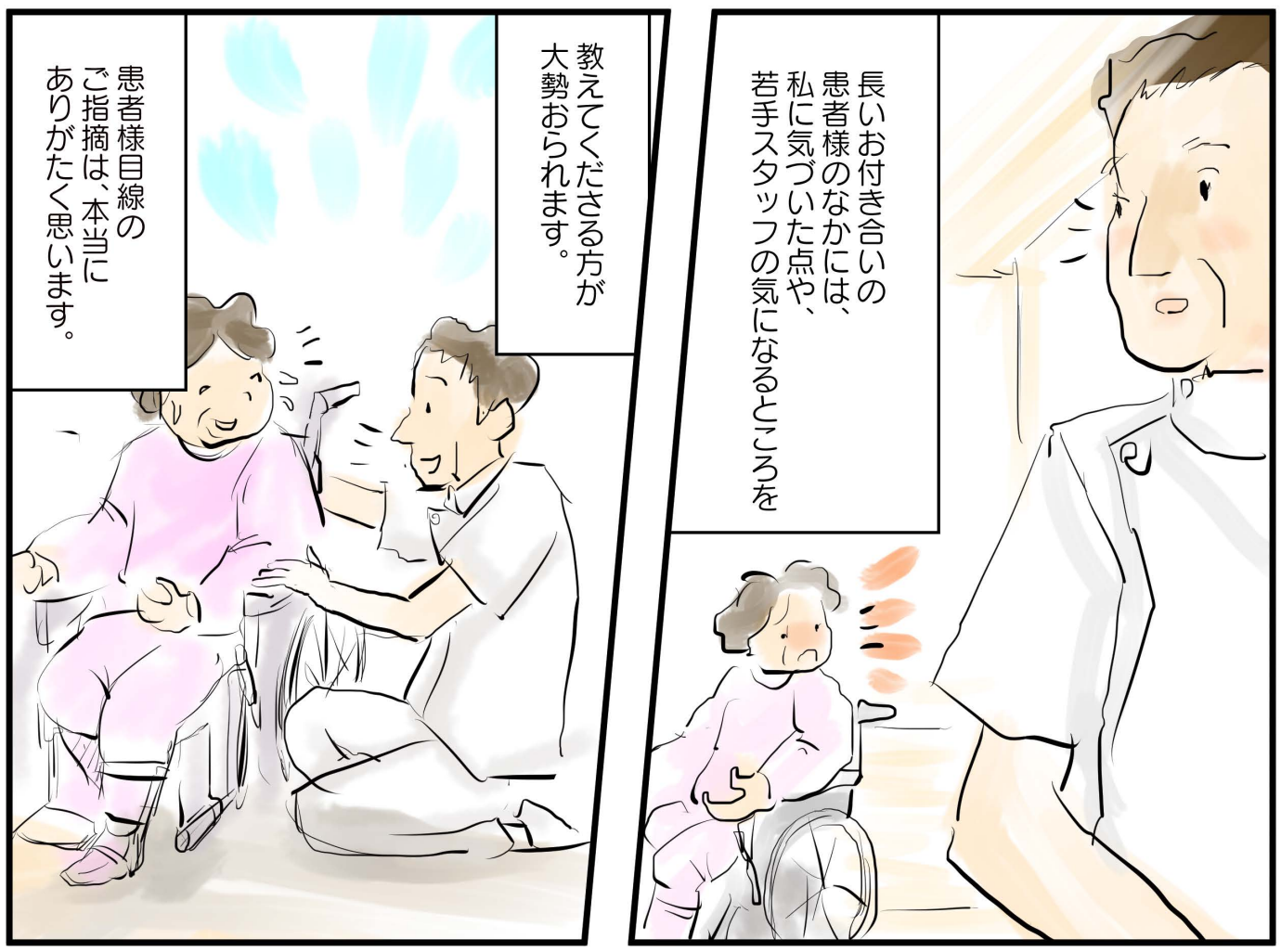
ご出産
おめでとうございます。
Bさん、
奥様！。

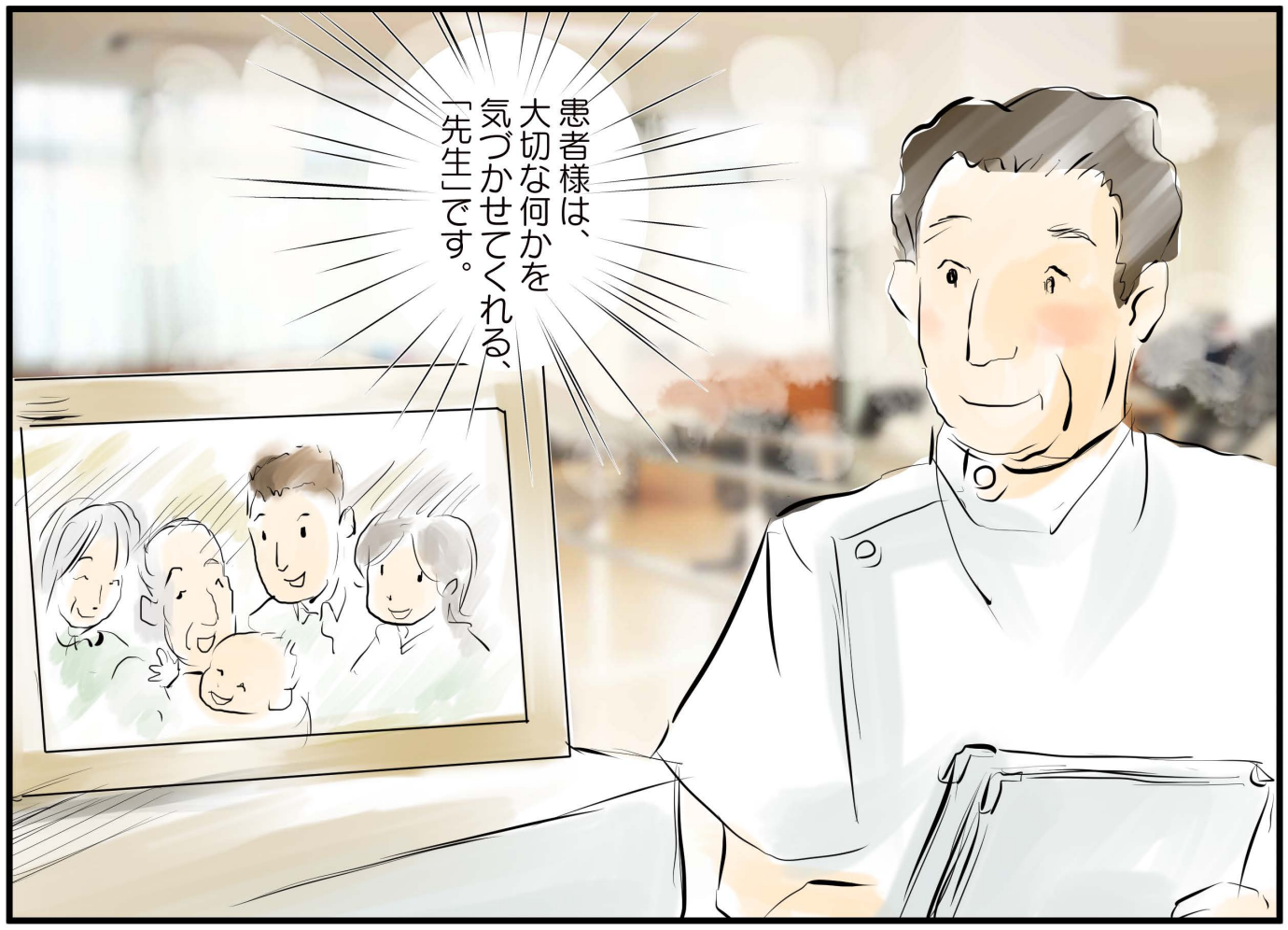

あ…ありがとう
ございます！

夫が、「行きたい」って
いうものですから。
ニコニコニコ


抱っこして
くださいますか。


不思議と奥様は
失語症のBさんの
言葉がわかるのでした。
わざわざ外出届を出して
駆けつけてくださったのです。
患者様のお気持ちが
とてもありがたくて
嬉しくて。
胸がいっぱいになりました


長いお付き合いの
患者様のなかには、
私に気づいた点や、
若手スタッフの気になるところを
教えてくださる方が
大勢おられます。
患者様目線の
ご指摘は、本当に
ありがたく思います。


患者様は、
大切な何かを
気づかせてくれる、
「先生」です。

おわり